

(様式 17)

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称	博士 (医 学)	氏名	三 井 信 幸
審査担当者	主査	教授	武 藏 学
	副査	教授	久 住 一 郎
	副査	教授	吉 岡 充 弘
	副査	准教授	矢 部 一 郎

学 位 論 文 題 名

Personality and psychiatric feature of young adults with depression and suicidality
(自殺とうつ病に関連する気質-性格特性および精神医学的特徴に関する研究)

青年期の自殺とうつ病に関連する気質-性格特性を調査することを目的に、三つの研究を行った。第一に自殺念慮を伴ううつ病に関連する要因を探索的に検討した結果、自殺念慮には、自尊感情の低下が最も関連することが確認された。第二の研究では、多数例を対象に、うつ病エピソードおよび自殺念慮と関連する気質-性格特性について横断的に検討した。調査には Temperament and Character Inventory (TCI) 等の評価尺度を用いた。その結果、損害回避 (HA) が高く、自己志向 (SD) が低い傾向が確認された。さらに性格特性のうち自己志向 (SD) と協調 (C) が共に低い組み合わせの群では、うつ病エピソードおよび自殺念慮の発生率が高くなる傾向が認められた。第三の研究では自殺既遂者の気質-性格特性を TCI により検討し、自殺既遂者の TCI 上の特徴として、HA が高いことが確認された。

質疑応答では、矢部一郎准教授からは評価尺度の妥当性や研究の限界に関する質問があり、吉岡充弘教授からは TCI の内容及び回答の経時的変化に関する質問があり、久住一郎教授からは、自殺既遂者に特異的な TCI 上の特徴に関する指摘があり、武藏学教授からは自尊感情に対する介入に関する質問があった。いずれの質問に対しても、申請者は自殺と人格特性に関するこれまでの研究結果を引用し、また今回の研究結果をふまえて、これまで明確になっている部分と今後検討されるべき課題を的確に回答した。

この論文は、自殺とうつ病に関連する気質-性格特性を検証した臨床研究の論文として高く評価される。今後、さらに研究を継続することにより、自殺の予測因子の解明や自殺予防など臨床応用に資することが期待される。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ、申請者が博士 (医学) の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。